

「こんな時でも。こんな時だから」

コロナ禍の中でのボランティア。みなさまはどんなことを思うのでしょうか。お声を寄せていただきました。

※寄せられた声の一部抜粋を掲載させていただきます。全文は、ボランティアセンターHPにアップしました。どうぞこちらもご覧ください。

コロナ禍もすでに1年。私のボランティア活動も、戸外での短時間特定の個人を対象とするガイドボランティア以外は休みとなっていますが、それは仕方のないことだと思っています。それよりも、コロナ禍で活動者自身のボランティアに対する考え方が変わって来て、終息後にも気軽に元のように活動に戻れなくなってしまうのではないかと、罹患歴のある人や周辺の偏見、差別が生まれないかの方が心配です。不安を茶化さず、楽観せず、その後を見据えて今を過ごす。雲外蒼天。雲を突き抜けたその先には、明るい青空が広がっているはず。

「with コロナ」の時代、ボランティア活動も感染リスクを考えながら（自分自身が高齢なので）活動を行っています。プライベートではお茶会や食事会にも出席してはいますが、マスクは外せません。

しんどい状況にあるけれど、元気に活動できる日を楽しみに今を乗り切ろう！！
マジシャン シリュウ

ボランティア活動を始めて7年。活動のたびごとに、子ども達の笑顔に出会い、自分自身の活力の源となっています。体力の続く限りボランティア活動を続けていきたいと思っています。

私は5年間、ガイドボランティアを続けています。心掛けていることは、お手伝いさせてもらっていることを忘れずに、言葉遣い、態度に気を付けています。お迎えの日は必ず確認の電話をします。私は85歳、足腰を鍛えて長く続けられるように心がけています。

友人には「すごい」と言われるが、自分にとってのボランティアは、興味があることを見つけてやっているだけ…。相手から元気をもらっているし、自分のスキルが足らずに苦しい時は、「自分の好きなことを行っているのだから」と乗り切っています。

コロナ禍にあり、自分自身も高齢者であることからボランティア活動を自粛していましたが、活動先からのお誘いを受けたことから活動を再開し、今はとても楽しい時間を過ごさせてもらっています。

今年はコロナ禍でボランティア活動が中止になったままになっております。私の場合、一人で活動しているので、他のボランティアさん、施設等受け入れ先がどのようになっているか全くわかりません。施設の方からも、何の連絡もありません。こんなことでよいのでしょうか。

夫が倒れた後、しばらくボランティア活動は中止していましたが、色々な方々のおかげで乗り越えられました。今はその恩返し気持ちをもってコロナが落ち着いた頃に、できる時に出来ることをしたいと思っています。

高齢の両親もおり、ボランティア活動を中止していましたが、屋外での活動ならばできるかも…と思い、ガイドボランティア活動をお受けしました。「自分が誰かの役に立っている」ということよりも、「自分自身がボランティア活動を通じて元気をもらっている」と感じています。

活動が途切れてしまったならば、その活動自体を元に戻すことは難しくなります。だからこそ、細くとも活動を続けていかなければ…と思っています。コロナが早く収束し、ボランティア活動を再開したいと強く願っています。

自粛期間を終え社会全体が活動を広げるにつれて、私たち「森の絵本ひろば」のメンバーも、活動の再開を考え始め、今まではおはなし会を行ってきた保育園や学童の方へ連絡をすると、「子ども達、待っていたんですよ」「いよいよですね」と快く受け止めてくださいました。そこで、感染を予防しながらおはなし会を行うためのガイドラインについて話し合いを重ねました。話し合うことで、私達ボランティア側も保育園や学童も感染に対する不安が徐々に薄れ、「おはなし会を再開しよう」という気持ちで一致できました。

“視覚障害者の集い？”そんな会を立ち上げたいと、目下勉強中です。

困っている人がいて、手を出せる人がいた。自分は手を出せる側にいただけです。

高齢者施設は外来者を受け入れていない状況が続き、楽器演奏のボランティアも1年近く出来ていません。でも、活動の再開要望は強く、季節の変わり目ごとに、施設の様子が書かれたハガキや手紙が届き、活動を続ける強い原動力となっています。コロナ終息のあかつきには、新しい曲で皆さまと歌が歌えるようにと、今は練習に励んでいます。

私のボランティア活動は！！
けん玉教室、バルーン教室では3密対策、人と人との距離の確保、マスクの着用を実施しています。当分の間、コロナの収束は望めないとはいいますが、皆でワイワイたのしく活動出来る日が来るのを楽しみにしています。

コロナ流行当初は特に変化もなく自身や家族を守ることで精一杯で、正直ボランティア活動どころではない心境でしたが、コロナ禍によりボランティア活動から見えてきた事もあります。ボランティア活動参加により、対象者も、活動者も保たれていた健康もあったと思います。「自分は誰かの役に立っている」と実感できる瞬間は、生きる上でとても重要なエネルギーだと思うので、一日も早くボランティア活動が再開され、たくさんの笑顔がうまれることを心から望んでおります。

シンガースマイリストかめまり

コロナ感染のリスクを考慮して現在は「話し相手、傾聴」活動を中止していますが、グループの定例会に出席して皆さんと情報・意見の交換を行い、活動の参考にしています。歌を通じて楽しんでもらえるよう、趣味としているエレクトリックギターも、日々練習を重ねています

コロナ前の様に好きな所に行き、大きな声で友達とおしゃべりができる、そんな楽しかった日々が必ず戻ってくると信じ、願い、期待したいと思います。

コロナ禍のもと、自分の方向性が定まらず、何をしたらよいのか分かりません。日本では諸外国よりも発症や死亡率は低いと報道されていますが、コロナの本当の怖さは感染したかどうか自分でもわからないところにあります。時をかけ、もう少し様子をみなければ私自身が動くことができません。今は外出を控え家にこもってばかりです。